中野運送 株式会社
代表取締役

中野 雅仁

創業50年を迎え、二代目社長に就任した中野社長。
当初は他にやりたいことがあり、自ら事業を興したいと考えていた。
しかし、様々な人と出会う中で、自問自答を繰り返し、「個」を確立。
改めて、家業を継ぐ決意を固めた。
まずは、先々代・先代が作り上げた事業基盤をさらに強固なものとし、
盤石な体制を築いたあとで、自らのカラーを出して、さらなる成長を目指す。

（対談記事は 118 ～ 119 頁に掲載）

「まずは今の事業をさらに盤石にし、プラスαの挑戦を目指していきたい」

運送会社の三代目若手社長の代替わりの決意と、未来のビジョン

女優
佐藤 藍子

special interview ×

代表取締役
中野 雅仁

「荷主様にかわって 荷主様の心をお客様に運ぼう」を経営理念に、一般貨物自動車運送事業を手掛けている「中野運送」。創業から50年を迎えた同社を率いる三代目・中野社長は、次の50年に向けて力強く歩みを進めている。本日は、女優の佐藤藍子さんが同社を訪問。社長にお話を伺った。

――本日は、最近新しい社長が就任されたという、愛知県の「中野運送」さんを訪れております。中野社長は何代目に当たるのでしょうか。

先々代が当社「中野運送」を立ち上げ、現在、私が三代目社長を務めています。小さいころから、会社を遊び場にし、運送業は身近ではありましたが、他にも色々とやりたいことがありまして、当初は家業を受け継ごうと思っていなかったんです。

――そこから、現職に就かれるまでの道のりをお聞かせ願えますか。

親が事業を手掛けていますから、何かしら事業を興してみたいという思いがありまして、神奈川県にある大学に進学し、経営学を学びました。大学時代にはジムのインストラクターをしていたこともあって、フィットネス業界に関心があり、独立なども考えていました。そうして時は流れ、就職活動の時期が訪れました。社長（現会長）や母は「卒業後、そのまま家業に入って、うちで勉強すれば良い」と言ってくれていましたが、周囲も一斉に就活モードになり、何事も経験だという思いで、私も就職活動を始めたんです。家業を継ぐ継がないにしろ、社会がどのように働いているかを勉強したいと思って、まずは他の会社に入社することにしたんです。

――では、最初はどのような会社に入られたのでしょうか。

人材関係のベンチャー企業に入社しました。実は、そちらの会社の採用過程で家業に入る決意が固まったんです。大学時代に所属していたゼミの担当教授は、学生たちに対して「個として確立する」機会を多く設ける方で、私自身充分に向き合ってきました。ただ、そちらの採用活動を通じて、自分でもまだ気付いていない点を気付かせてくれるきっかけがあったんです。それは、そちらの会社の採用リクルーターさんと話した時。「なぜ家業を継ぐよりも、独立したいと考えているのか」と問われた際に、それまで家業を継いだからには運送業一本で頑張らなければいけないと思っていたんですね。その考えを伝えると「それは自分次第ではないか？」と言われまして、確かにそうだと。家業のお客様や取引先様とのつながりやこれまで培ってきた信頼、実績は当然守らなければなりませんが、その上で、新規事業――たとえばジム経営などを始めるのも私次第なのだと、考えが大きく変わったんです。

――大きな気付きを得られたと。そちらの会社ではどのくらい経験を積まれて？

内定をいただき、インターンとして在学中から働かせていただくことになりました。そちらでは営業なども経験でき、2年勉強させていただきました。本当はもう少し長く、と思っていましたが、嬉しいことに家業が好調で、忙しいからということで、上司に相談し、退社させていただきまして家業に入りました。

――いざ家業に入られて、心境の変化などはございましたか。

働いたことはありませんから、業界未経験ですし、当社がどんな性質でどんな人がいて……など全く分かっていませんでした。ですから、新入社員のような「まっさらな気持ちで働こう」と決意したんです。そして、入社1年目は、倉庫内作業を経験しました。その中で、一緒に作業している人たちの声を間近で聞く機会があり、皆さんの考えを知ることができたのは大きかったですね。2年目からは、ドライバーとして現場に出る機会もいただきまして、そこでも色々なことを学ぶことができました。また、当社の経営理念である「荷主様にかわって 荷主様の心を お客様に運ぼう」も改めて意識することができました。そうして家業で色々な経験を積み重ね、現職に就いたのは数カ月前になります。

――これからの社長の舵取りに期待がかかりますね。最後にこれからの目標をお聞かせ願えますか。

当社が50周年のタイミングで代替わりしました。今年は新型コロナウイルスの感染拡大、来年は東京オリンピックの開催が予定されていて、大きな変化が訪れるかと思います。そんな時だからこそ、時代に合わせて、今まで培ってきた信頼や実績はもちろん強固に、それにプラスαで新しいこと、たとえばフィットネス業界への参入なども視野に入れ、それらのシナジー効果で、次の50年に向けて戦っていける会社にしていきたいと考えています。現在、自社ビルの立て直しを水面下で行っていまして、そうして着実に成長していければと考えています。

（2020年9月取材）

中野運送 株式会社
[本社事務所] 愛知県一宮市萩原町東宮重下祢宜屋 373
[本社営業所] 愛知県一宮市萩原町西宮重字東出 60
[伝法寺車庫] 愛知県一宮市伝法寺 3-5-10
[富士営業所] 静岡県富士市伝法 3-3
[埼玉事務所] 埼玉県行田市若小玉 1801-1
[鈴鹿営業所] 三重県鈴鹿市国府町一之谷 4817

「中野社長は長男で、今は次男も加わっておられ、来年には、大学4年生の三男も「中野運送」に入社されるんだとか。三兄弟が力を合わせ成長を目指していかれる姿が、今にも目に浮かぶようで、本当に楽しみでなりませんね。100年企業に向けて、これからも頑張っていって下さい。除々がらでもありますが、私も応援させていただきます」

並外れた行動力

▼これから先の50年を見据え、その行動力で以て、家業を発展させようと動いている中野社長。その行動力は、学生時代から変わっていない、社長の強みである。

▼高校時代に、これからさらにグローバル化が加速すると考えていた社長は、経験するなら早い頃ほうが良いと、1年生の時、1年間の留学を経験した。また、入部したボランティア部の活動で、海外へ行けるイベントがあり、それに参加するために校長先生に直接交渉、3年生の時にハワイでの国際ボランティアを経験し、国籍の違う同世代の人々との交流を深めた。

▼そんな社長の行動力から、海外に興味を持った問題生などから「留学してみたい」という意見があがり、社長は、学校に留学企画を打診。すると、学校から短期留学の企画が生まれ、希望したメンバーはカナダへの留学が実現したのだとか。

▼社長の行動が周囲を動かし、多くの人の経験につながった。これからもその並外れた行動力で、事業を牽引していくことだろう。